

初声中学校
本年度の重点に対する評価

令和2年度 重点1

本年度の重点	1	学力の定着・学習意欲の向上を図る
目標（評価基準）	○生徒一人ひとりが主体的に活動し、自己肯定感をもてる授業実践を行う。 ○生徒一人ひとりが「基礎基本の定着」が実感できる授業づくりを推進する。 ○家庭学習の定着に向けて具体的な取り組みと意欲向上のための取り組みを全職員共通理解のもと進める。 ○教員一人ひとりが、授業を工夫して行い、授業力のアップを目指す。	
重点に係る現状 設定理由	○授業力・教師力を向上させることで、生徒が主体的に活動し、自己肯定感を実感できる授業づくりを行うことで、更に学習意欲を向上させる。 ○生徒の家庭学習に対する、意識や取り組みには課題があり、全職員共通理解のもと、工夫して進めていく必要がある。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「生徒は前向きに授業に参加している」という設問には、94%が肯定的回答をしている。 ○「生徒に基礎的・基本的な学力を育むことができている」という設問には、74%が肯定的回答をしている。 ○「生徒は家庭学習の習慣がついている」という設問には、20%の肯定的回答にとどまり、評価が低く、取り組みの改善が必要である。 ○「指導方法の工夫、教材（資料）の工夫」という設問には、85%が肯定的回答をしている。
各アンケート等の結果	○「授業がわかりやすい教え方が工夫されている」という設問には、生徒の80%が肯定的回答に対し、保護者の肯定的回答は55%にとどまった。 ○「基礎基本が身につけている」という設問には、生徒の68%が肯定的回答であり、保護者の肯定的回答62%とほぼ変わりはない。 ○「家庭学習が身につけている」という設問には、生徒回答40%、保護者回答48%の肯定的回答であった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○「わかりやすい授業」については、生徒80%に対し保護者55%と差異があった。 ○「基礎基本の定着」については、教員74%、生徒68%、保護者62%と大きな差はなかった。 ○「家庭学習の定着」については、教員20%、生徒40%、保護者48%で、教員・生徒保護者で差異があった。 * 今年度は、コロナの影響で保護者の来校機会が激減したこともあり、わからないと回答する設問が例年より多くあった。今まで以上に学校だよりや学年・学級通信などで細かい情報発信に努める必要がある。 * 家庭学習については、三者とも評価があまり高くない。学習状況の適切な判断の元、課題提供の必要がある。コロナによる臨時休業中において、与られたプリント教材への取り組みは行われていたが、それ以外のeラーニング（デジタル教材）の取り組みについては、工夫が必要である。
学校関係者評価結果	○コロナ禍で心配していたが、生徒が前向きに学習に取り組んでいる結果に安心した。 ○リモート等で授業が出来るようになると学習面では良いが、人との関りや集団生活に心配が出てくる。PC機器に慣れることはいいが、目が悪くなるのが心配。 ○コロナ禍ではあるけど、子どもたちは学校の良さがわかったのではないかと。
最終改善方策	○どんな状況にあっても、生徒に確実な学習環境を整え、生徒にとってわかりやすく確かな学力を身につけさせる授業を提供していく。 ○家庭学習の習慣化については、毎年、工夫した取り組みを行っているが、まだまだ不十分な面がある。基礎基本の定着に向け、確実な家庭学習の取り組みを工夫して行っていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	「生きる力」「豊かな心」を育成する指導の充実
目標（評価規準）	○生徒の生きる力、豊かな心を育て、その成果として、生徒が主体的に生活していく姿勢をもたせる。 ○生徒一人ひとりに居場所があり、仲間と協力して落ち着いた日常生活を送ることが出来る。 ○いじめ防止委員会、適応サポート委員会を通して、問題の未然防止、早期発見・早期対応・早期解決を図り、生徒一人ひとりが大切にされていると実感できる学校づくりを進める。	
重点に係る現状 設定理由	○生徒一人ひとりに居場所があり、日常生活だけでなく、行事・部活動に充実した生活が送れるよう学校環境を更に整えていく。 ○いじめ防止委員会、適応サポート委員会を適切に機能させ活動を充実させる。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「生徒は楽しく充実した学校生活を送っている」という設問には、80%が肯定的回答をしている。 ○「生徒にとって学校は、安心安全な場所だと思う」という設問には、90%が肯定的回答をしている。 ○「いじめや嫌がらせの防止や対応について」という設問には、80%が肯定的回答をしている。 ○「人を思いやることの大切さや社会的ルールが身につけられる指導」については、90%が肯定的回答をしている。
各アンケート等の結果	○「楽しく充実した学校生活を送っている」という設問には、生徒の86%、保護者の89%が肯定的回答をしている。 ○「学校は安心安全な場所だと思う」という設問には、生徒の73%、保護者の86%が肯定的回答をしている。 ○「いじめや嫌がらせに生徒とともに取り組んでいる」という設問には、生徒の76%に対し、保護者の肯定的回答は59%にとどまった。 ○「何でも相談できる先生や友だちがいますか」という設問には、生徒の85%、保護者86%が肯定的回答をしている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○「楽しく充実した学校生活を送っている」については、教員・生徒・保護者とも80%以上が肯定的回答であり高い評価であった。更に充実した学校生活のために、「一人ひとりを大切にしたい」学校環境づくりを継続していきたい。 ○学校は安心安全な場所については、教員・生徒・保護者で多少の差異はあったが、評価としては高かった。生徒評価が80%以上となるよう、工夫した取り組みを行っていく必要がある。 ○「相談できる先生や友達がいる」については、生徒・保護者とも高い評価であった。生徒一人ひとりに存在意識があり、居場所がある環境を継続し、安心・安全・安定した学校づくりをすすめていく。 ＊コロナの影響で、臨時休校があけてから授業中心の日常になり、例年、学期初めに行っていた決まり事、ルールの確認、学校生活についての確認が十分ではなかったが、教科授業の際に工夫した実践を行うことで補う事ができた。 ＊社会性や人間性を育てることは、学校生活の中においてとても重要なことである。教科授業では育成しきれないことを、学級活動や特別活動を通じて育てていくために、効率的で有効な取り組みの実施しながら一人ひとりの心の安定・心の成長を期待した学校環境づくりをすすめていく。
学校関係者評価結果	○子どもたちにとって、学校が安全安心な場所として捉えられている事は素晴らしい。 アンケートの評価が高かったのは安心した。 ○何でも相談できるとのアンケート結果が高いのは、安心して生活できることと大きく関係していると思うし、生徒と先生との関係が良いという証明だと思う。
最終改善方策	○「安心安全な学校」「思いやりの心」「楽しく充実した学校生活」は、学校教育目標達成のために重要なことであり、良い評価をいただいているが、更に、取り組みを充実させていく。 ○「いじめについての取り組み」は、SNS等による、見えないトラブルが多くなっている。トラブル防止のための講演会などを実施し、未然防止の取り組みを行っていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	家庭・地域とのベクトルを合わせるための連携の推進と発展
目標（評価規準）	○PTA活動、地区懇談会、学校公開などを通して家庭・地域との連携を更に進める。 ○学校の教育活動が家庭・地域に理解されるよう、市民センターへの学校だよりの掲示の継続など情報発信に努める。 ○小学校と引き続き連携し、相互に授業参観・授業研究を行い一小一中の良さを生かした連携を発展させていく。	
重点に係る現状 設定理由	○地域に開かれた学校のため、土曜参観なども継続して実施し、又、地域行事へも生徒・職員を積極的に派遣していく。 ○学校だより等、更に内容を充実させ、地域の学校に対する理解を深めていく。 ○一小一中の良さを生かし、小中の連携を更に充実させ深めていく。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「学校だよりなどを通して学校の様子が保護者・地域に伝わっている」という設問には、70%が肯定的回答をしている。 ○「各家庭や地域は、中学校に対して、それぞれの役割を果たし連携・協力していると思う」という設問には、95%が肯定的回答をしている。 ○「学校は小学校と連携をよく行っている」という設問には、65%が肯定的回答をしている。 ○「担当する部活動に、生徒は積極的に参加していると思う」という設問には、85%が肯定的回答をしている。
各アンケート等の結果	○「学校の様子が保護者・地域に伝わっている」という設問には、保護者の81%が肯定的回答をしている。 ○「各家庭や地域は役割を果たし学校と連携協力している」という設問には、保護者の76%が肯定的回答をしている。 ○「部活動に積極的に参加している」という設問には、生徒66%、保護者65%が肯定的回答をしている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○「学校だよりなどで学校の様子が伝わってくる」という設問については、今年度も高い評価であった。 ○「各家庭や地域は役割を果たし学校と連携協力している」という設問については、今年度も高い評価であった。 ＊学校の様子が伝わってくるについては、例年通り高い評価であった。今年度は、保護者の学校への来校機会がほとんどなかったため、通信でのお知らせが唯一の情報提供の手立てであった。そのため、なるべく詳細を伝えることを心がけたことが高評価につながったと考えられる。また、マチコミメールなども活用しタイムリーな情報伝達を行った。今後も中々学校へ来校できない保護者のために情報提供の手立てとしての通信（たより）を有効活用していく。 ＊コロナの影響で設問によっては、回答しにくい設問があった。保護者の多くは、今年度の学校状況に理解を示していただき協力的であった。コロナ禍でなく平時においても、学校と家庭・地域が連携協力して、地域で生徒の成長を見守ることの出来る環境を作っていく必要がある。 ＊部活動については、活動できる日が少なく、公式戦の中止などもあり、モチベーションが中々上がらない状況の中、教員・生徒も前向きな活動ができ、今後につながる活動を継続させたい。
学校関係者評価結果	○今年は、地域行事も中止になり、つながりあまりなかったのは残念だった。 ○「学校の様子が伝わっている」結果が高かったのは、コロナ禍で心配している保護者にとっては、とても安心できることである。 ○地域にいと、以前より挨拶してくれる子どもが減ったように感じる。
最終改善方策	○家庭・地域の連携の強さは、本校にとって大きな強みである。今後も地域・保護者に信頼され、支援していただける様、様々な機会を通して連携を図っていく。 ○小学校との連携についても、本年度はなかなか出来なかったが、一小一中の特徴をいかし取り組みを継続し、小中一貫の視点に立って積極的に行っていく。